

の 市報

No.99

9月号

昭和42年9月1日発行

編集

秘書企画課

発行

岐阜県美濃加茂市

美濃加茂市太田町

電話057425-211140

人口の動き

8月1日現在

総人口 33,908人

男 16,670人

女 17,238人

(昨年同月33,431人)

世帯数 7,587戸

(昨年同月 7,392戸)

住民登録人口より



急ピッチで

進められている

土木事業



太田町若宮～深田地内で、国道21号線(木原～明世間)と国道248号線(蒲原～岐阜間)を結ぶ、都市街路若宮～深田線の工事が始まりました。(完成明年3月)

この工事は、交通緩和と産業・経済開発の大動脈として、ことし市が力を入れている大きな土木事業です。

若宮～深田線は、幅12メートル、延長1,119メートル、工事費3,600万円、中央7メートルは本舗装です。

吉井町上古井地内で、二子排水工事が始まりました。二子排水は、二子池・ジゼル基地を経て木曽川に流すもので、11月ごろ完成します。(延長六百七十一メートル)

として保存しておいてください。またお役にたつときがあると思います。

9月の 広報メモ

今月は、敬老の日とか秋分の日など行事の多い月です。また子どもたちの遠足や運動会もばつばつ始まります。

また、今月は台風シーズンです台風への心構えとして十分な対策を考えておきましょう。

さて、今月のこよみは……

一日 西中学校開校式 二百十日 防災の日 関東大震災記念日。またこの日から一か月間、がん征圧月間、愛の血液助け合い運動、精神障害者愛護月間など始まります。

五日 終身老人クラブ総会浄明寺伊深町教会、正殿寺

十日 市総合体育大会バレーボール一般女子(婦人会)東中学校、軟式野球(消防団)東総合運動場ほかで、午前八時三十分から始まります。

十三日 司法保護記念日。

十四日 加野茂町敬老会加茂野小

十五日 敬老の日。

太田町敬老会 中央公民館

十七日 家庭の日。親子映画会が中央公民館で開かれます(前九時)

三和町戦没者慰霊祭

十九日 満月

二十日 航空記念日。

二十一日 彼岸入り。この日から動物愛護週間が始まります。

二十三日 県体育大会。岐阜市二十四日 秋分の日。彼岸の中の日。また、この日から結核予防週間にいらいます。

市民意識調査の集計結果発表

活気ある市民意識

地区ごとに異なる「答」

市民のみならず、たいへん協力いただきました「市民意識調査」の集計結果がこのほどまとまりました。

この調査は、マスタープラン（市の将来への基本となる計画）の中へ、みなさんのご希望、要求をとり入れるための基礎資料として、現状判断・将来展望・市民のエネルギー（市民の動き）の三つを柱として設け、ことし六月に行なったものです。

調査は全世帯を対象として、その中から選

挙権のある人を無作為抽出法によって選り出し、調査員による自計申告法で行なったものです。

配付回収率

九十七・〇％
有効回収率

六千四百九十枚

調査結果の概要は次のとおりです。

現状判断より将来展望・市民のエネルギーを特集しました。

現状判断

一問一答形式で、いわゆる基本となる項目で、「男」「女」か、あるいは年令・職業などについて、質問したものです。

問5から問18までは生活の現状に対する判断（教育、市民衛生、交通安全、土木、社会福祉、農業、商工業、観光、公害の問題など）

を質問しました。

これらの質問のうち、表面に現われた意識は、各地区によってそれぞれの見方・考え方が異なり現状に対する要望の声も、地区の特性が出ています。

この特性は、これからの市政を推進して行く上に、大きな参考となつて対策がたてられてゆきます。

市の発展は

「総合的なもの」がトップ

マスタープランの具体案は、市民のみならず「将来の展望をどのように考えているか」ということを参考に、実現の可能性を探り、策定していきます。

問19から問24までの問題は、これらを具体的に掘り下げたもので、マスタープランを作成する上、重要なポイントとして、道路や交通の予想を裏付けていくものと思われま

す。

（問）美濃加茂市の発展のきまは、次のうちどれだと思いますか。

地価が高い

27%

たとえば、教育の問題をとり

上げてみると老朽化した校舎をもつ地区は「校舎を新築する」と答える人が多く、また市街地では「通学道をつくる」というように、答が比較的一カ所か二カ所に集中して地区ごととその傾向が顕著に現われています。

交通事情が悪い

わからぬ

物価が高い

（以下略）

二市のさまざまなことについて

ものは、各地区とも「地価が高い」と答えた人が圧倒的に多い。これは、わたくしたちの市が他の地域と比較して、道路・鉄道など交通に恵まれ、発展の要素を多くもっている……という

ことを、改修・新設された道路沿線の地価が高騰している現状からみて、土地の絶対量不足から、当然の結果と思われる。しかし、農村部では不便な



長寿の秘訣は「意思を強く」

「意思を強く」

ことし、市内で一番長寿の人は、明治四十年生まれ、九十六歳の朝日金松さんです。

朝日さんは、三和町で生まれ三和町で育った人で、農業を主として山仕事など、現在もやっておられ、「耳が遠い」ということを除けば、非常に健康な方です。

八月二十四日、この朝日さんを訪ねた朝日さん（35）の通訳で、長寿の秘訣などいろいろと話していただきました。

話の内容は次のとおりです
「長寿の秘訣はなんですか
「意思が強いということですか
「私は、病気をしない……と信じています」

「食べものに、好き、嫌いがあ

りますか
「ありません。油揚げのあるものはあまり好きでない、酒は若い頃から好きで、一升ぐらいは飲んだことがあります。この頃は一日一合ぐらい飲むのが楽しみ。とくに好きな食べものはうどんなどめん類です」

「たばこはどうですか
「七十五、六歳ごろから少し吸い始めました。やはり吸わない方がよいでしょう。現在は一日三本ぐらい吸います」

「趣味はなんですか
「旅行。とにかくいろいろのところに旅行してみたい」

「健康な秘訣はありますか
「特別な健康法はありませんか
「特別な健康法はありませんか

「特別な健康法はありませんか

めに「交通事情が悪い」と答える人が多く、市街地の「便利」からくるさまたげと、逆な考え方が出ていることを見のがすことができません。

〔問〕あなたは、美濃加茂市のこれからの発展の中心として、次のうちどれを希望されますか。

工業中心 27%
商業中心 19%
観光中心 14%
住宅中心 11%
農業中心 8.28%
商業中心 5%

(以下略)

三 市の発展の中心となるものは各地区とも「中心はないが総合的なもの」と答えた人が多く、特長の少ない市の実態を反映した答えになったものと思われまします。

事業を「拡大したい」意識

農業は商工業と大きな差

問26からは、家族全員のお考えを中心に、住む意思の問題、生業(商・工・サ・ビ・ス業、農業)の将来の問題など、私たちの生活から、切りはなせない問題を答えていただきました。これは「市民の動きを知る」ためのものです。

七 住む意思の問題では、現在のところに住もうと思う人が、市全体で77%ありますが、とくに、ここでは「上へ移りたい」と答えた人の意識が問題になってきます。

この移動家数九百三十に、調査時点における平均人数二・九人をかけると、実に四千二百五人が動くことになり、相当大きなエネルギーが予想されることになりました。

問28からは、生業の基本となる項目から、質問してありますのでここでは、将来の問題について少し掘り下げてみました。

八 商・工・サ・ビ・ス業の方に、今の事業を今後どのようにしてゆ

地域の中心は、市街地の「工業中心」と「商業中心」が多く、農村部では「農業中心」と答えているのはその職業への愛着心がはつきりとうかがわれています。

〔問〕これからの工場建設は、次のうちのどの地域がいちばん適当だと思いますか。

吉井地域 27%
加茂野地域 22%
わがらない 14%
下米田・牧野地域 13.9%
(以下略)

四 工場適地は各地区ともに、東部では「吉井」「下米田・牧野」、西部では「加茂野」と答える人が多いが、また、「わからない」と答えた人が多くあり、適地のむづかしさをあらわしています。

五 住宅地域は、各地区とも自分の地域が一位を占めています。

自分の住んでいるところの発展を望むことは、ごく自然の結果といえそうです。具体的に次のとおり。

吉井地域 31%
太田地域 19%
榑屋地域 14%
(以下略)

〔問〕これからの公團的な市民のいい場所には、次のうちのどの地域がいちばん適当だと思いますか。

山之上から吉井町に 49%
飛騨・木曾川流域 18.1%
かけての丘陵地帯 17.9%
三和・伊深町の川瀬谷 7%
(以下略)

六 これからの公團的な市民のいい場所は「飛騨・木曾川流域」と答えた人が約半数あり、この流域に大きな魅力と期待を寄せている結果が出ています。

くおつもりですか——という質問では、半数以上(55%)の人が「事業を拡大してゆきたい」と答えています。

地区別には、それはどの変化がみられませんが、専業か、兼業かによっても、その意識に差があります。商工業を専業している六割強の家が「拡大してゆきたい」と答え、兼業率が高くなるほど、この意識がうすれていきます。

また事業所得が、その家の総所得の三割以下では、「現状のまま」でゆきたい人が多く、所得の率によっても、意識も大きく分けられています。

九 「農業経営をどのようにしてゆきたいか」という質問では、市全体の68%の農家が現状維持的な考え方を示しており、わずかに19%の農家が「拡大してゆきたい」という意識をもっており、これを耕作面積別にみると、面積が多いほど拡大意識が高く、逆に少なくなるほど「現状のまま」で自給自足的な意識が強く出ています。

また、農業後継者の問題では、市全体で「後継ぎさせたい」が40%、「わからない」が30%、「後継ぎさせたくない」が20%となっており、農業の将来に問題を残しています。

しかし、耕作面積が多い家では「後継ぎさせたい」意識も高く、これはまさに、専業農家でも「よく意味があるように思えます」。

「特別な健康法はない。しかし、今でも早寝、早起きで、腹八分目でもいいと思います。また、暴飲暴食はしたことはありません。それから普通の人の二倍ぐらい仕事をし、若い時から体をきたえました。」

政治に興味がありますか

「選挙です。今まで行われた選挙では、一度も棄権したことがありません。」

「結婚は何歳でしたか

「二十七歳の時です。子供は三人、孫六人、ひこ十一人、あまり多産系ではありません。」

「自慢はなしはありませんか

「昔から病気をしたことがない。それから、子どもや孫が私をたいせつにしてくれるので、子どもや孫を自慢したい。」

「あなたが、市で一番長寿ということになりましたが……」

「私が一番ですか、みんな早く死にますね(笑)。そうすると私が市民の長、いわゆる市長というのになりますね(笑)。」

このほか「一番うれしかったこと」と「悲しかったこと」と市への要望と青年に告ぐ「明治・大正・昭和」で印象の深いことなどは、通訳さんの努力むなしく聞けませんでした。

池村さんが入選

マスタープラン

論文募集

市報七月号などで、公称しました「マスタープラン論文」の入選作が、審査会で決定しましたので次のとおりお知らせします。

入選作は、次のページに掲載しました。

なお、入選された池村さんは、賞金(二万円)を「市の社会福祉事業」に寄付されました。

一般の部

入選 池村 重生(吉井)

佳作 尾石 正義(榑屋)

中学校の部

入選 村井ともえ(北中)

佳作 渡辺 厚(東中)

〃〃 西岡 玲子(北中)

〃〃 白木 久弥(東中)

「マスタープラン論文」 入選発表

明るい豊かな美濃加茂市づくり

古井町 池村 重生 (41歳)

(一) はじめに

美濃加茂市は昭和二十九年、市制制定以来岐阜県内陸工業地帯の一員として発展しているが、臨海部をもたない内陸都市ということから産業発展上、大きなギャップをかかえてきたといえよう。しかし名鉄バイパスの建設をはじめ、従来の交通手段である国鉄高山線・太田線・越美南線などの鉄道網、さらに国道四十一号線・二十

一号線・二百四十八号線などの道路網といった交通体系の整備拡充により、これまで不利な条件とされてきた『内陸的性質』の中で、これらのメリットを有効活用することによって商業振興を、積極的に展開すべき大きな転機にいま立たされていくといえよう。

は、市民の多くが、いかなる事実として受けとっているのか。伊勢湾臨海工業地帯が過密化防止のためにその『整備』が叫ばれ、岐阜県下を始めとする内陸部に開拓しようという中部圏開発整備法の根本方針をみると、美濃加茂市の将来に關する経済的、社会的、文化的な総合発展策ともいえるマスタープランをつくり、これを早期具体化に移す絶好の時機にきてるといえる。現在、鉄道網の整備拡充とともに、高山・東海道・中央(西線)太田の各線が結んだ美濃太田・岐阜・名古屋・多治見・美濃太田を結ぶ主要幹線列車の運行計画や、越美南線の全通化による北陸経済圏との交通、また市内幹線および加茂野地区への工場用地造成計画、さらに木曾川右岸用水の建設、中濃大橋架橋による中京経済圏への接近など大きな計画が目前に上っており、これらの問題に對し市民の一人一人が前向きな目を開き取らなければならぬ。

めるとき、前項であげたように当市が鉄道、道路網の要所にありながら、同規模の他都市に比べて残念なことに産業発展のテンポが著しく乏しいという欠陥に気付かざるをえないのである。

これは、市の産業構造が第一次産業である農業の比率が全体の三分の一以上も占めているという点であって、高度加工産業の範疇(はんちゆう)に入らない内陸型加工工業の進出が、いまだ岐阜県各都市のすう勢からも一人美濃加茂市がとり残された感じすらするわけである。つまり現在第一次産業の比率が高い当市の産業構造を、時代のすう勢に合わせた工業開発の方向へ脱皮させねばならないと感ぜざるを得ない。この際、もちろん工業開発だけが万能であるというのでなく、中仙道の府場町として発展してきた当市の歴史的背景から、商業活動の育成・発展策もおろそかにできないし、また国定公園をかかえた都市として、木曾川をはじめとする観光資源の保全策が必要なのは論をまたない。

なかでも工業開発に当たっては、とくに河川上流部都市として排水処理などで公害をとらぬ産業は

立地が許されないわけで、これらの条件を満たす産業振興策を樹立し、さらに道路、鉄道網の拡充というメリットを地元住民が享受できるように対処しなければならぬ。すでに美濃加茂市全域にわたる工業地帯、商業地帯、住宅地帯といった土地利用計画ができていたものの、これらの土地は大半が私有地であり、時々その区分がぬり変えられたりしているのが現状のようである。土地の値上りなど時間の経過とともに、また道路、鉄道面での便利さが加わるにつれ、高騰は避けられず、財政力の面で先行取得ができないなど問題は多いが、全市内に関する用途計画を条例化するなどして、適地以外への立地を規制する手段を前もってとっておく必要がある。

また名鉄バイパスなど幹線道路の建設を、手をこまねいて待つていだけでは、単なる道路の通過都市に終わるだけでなく、名古屋地区への通勤圏の接近から労働力の市外流出になってしまふ。将来当市の産業が内陸型の場合、そこに働く労働力は市内での充足は望めず、むしろこれらの新しい道路を介して愛知・岐阜から確保するのが最も望ましいと考えられ、そのために幹線道路からこれに付随する市街地、住宅地、工業地帯への域内道路を建設しておかねばならない。市制制定後の当市と隣接都市を比較すると、関市、美濃市がいずれも伝統産業であり、しかも岐阜県の六大既存産業の一つである金箔、製紙業が立地するといふことは、ここ数年來関市

においては地元企業が近代化工場を建設し、さらに刃物業界の協業化として工場アパート(集団)がスタートしており、美濃市においても特産品とは、なんら関係のない自動車用ベアリングの大手メーカーや岐阜地区からの中堅企業を誘致し内陸工業開発都市として踏出し、木曾川をまたいだ可児町の自動車用油圧機器メーカーの下請企業と、三十七年九月の低関工業地帯開発法の指定を受けてから、電子工業開発、機械加工など軽工業の立地があった程度で、隣接内陸都市のすう勢からも遅れをとっている。しかも工業を含めた当市の産業生産性は、県内十三市中八位という不名誉な状況におかれていことは大いに反省しなければならぬ。

域内レベルの基盤整備を急げ

地域開発が声を大にして叫ばれているとき、昨年からスタートした中部圏開発整備法にもとづく開発整備の恩恵を、当市が大きく受けることは考えられない。それは同法が中部九県を一つとした中部広域経済圏の観点から計画を進める中部圏レベルのものであるからである。しかし同法がその法の示すごとく、開発と整備を兼ねるような法律であって、当地のような開発と整備が十分及ぶよう働きかける必要がある。この際、域内レベルの域内枝葉道路の点で述べた限

において、域内枝葉道路の点で述べた限

すでに市当局において市勢発展に對する総合的な長期計画を推進しているわけであるが、これまでの推移をみるに、その具体化はあまりにもスローテンポすぎたこと

(二) 現状と課題

きて、こうした観点から当市を眺

てみると、前項であげたように当市が鉄道、道路網の要所にありながら、同規模の他都市に比べて残念なことに産業発展のテンポが著しく乏しいという欠陥に気付かざるをえないのである。

これは、市の産業構造が第一次産業である農業の比率が全体の三分の一以上も占めているという点であって、高度加工産業の範疇(はんちゆう)に入らない内陸型加工工業の進出が、いまだ岐阜県各都市のすう勢からも一人美濃加茂市がとり残された感じすらするわけである。つまり現在第一次産業の比率が高い当市の産業構造を、時代のすう勢に合わせた工業開発の方向へ脱皮させねばならないと感ぜざるを得ない。この際、もちろん工業開発だけが万能であるというのでなく、中仙道の府場町として発展してきた当市の歴史的背景から、商業活動の育成・発展策もおろそかにできないし、また国定公園をかかえた都市として、木曾川をはじめとする観光資源の保全策が必要なのは論をまたない。

なかでも工業開発に当たっては、とくに河川上流部都市として排水処理などで公害をとらぬ産業は

立地が許されないわけで、これらの条件を満たす産業振興策を樹立し、さらに道路、鉄道網の拡充というメリットを地元住民が享受できるように対処しなければならぬ。すでに美濃加茂市全域にわたる工業地帯、商業地帯、住宅地帯といった土地利用計画ができていたものの、これらの土地は大半が私有地であり、時々その区分がぬり変えられたりしているのが現状のようである。土地の値上りなど時間の経過とともに、また道路、鉄道面での便利さが加わるにつれ、高騰は避けられず、財政力の面で先行取得ができないなど問題は多いが、全市内に関する用途計画を条例化するなどして、適地以外への立地を規制する手段を前もってとっておく必要がある。

また名鉄バイパスなど幹線道路の建設を、手をこまねいて待つていだけでは、単なる道路の通過都市に終わるだけでなく、名古屋地区への通勤圏の接近から労働力の市外流出になってしまふ。将来当市の産業が内陸型の場合、そこに働く労働力は市内での充足は望めず、むしろこれらの新しい道路を介して愛知・岐阜から確保するのが最も望ましいと考えられ、そのために幹線道路からこれに付随する市街地、住宅地、工業地帯への域内道路を建設しておかねばならない。市制制定後の当市と隣接都市を比較すると、関市、美濃市がいずれも伝統産業であり、しかも岐阜県の六大既存産業の一つである金箔、製紙業が立地するといふことは、ここ数年來関市

においては地元企業が近代化工場を建設し、さらに刃物業界の協業化として工場アパート(集団)がスタートしており、美濃市においても特産品とは、なんら関係のない自動車用ベアリングの大手メーカーや岐阜地区からの中堅企業を誘致し内陸工業開発都市として踏出し、木曾川をまたいだ可児町の自動車用油圧機器メーカーの下請企業と、三十七年九月の低関工業地帯開発法の指定を受けてから、電子工業開発、機械加工など軽工業の立地があった程度で、隣接内陸都市のすう勢からも遅れをとっている。しかも工業を含めた当市の産業生産性は、県内十三市中八位という不名誉な状況におかれていことは大いに反省しなければならぬ。

域内レベルの基盤整備を急げ

地域開発が声を大にして叫ばれているとき、昨年からスタートした中部圏開発整備法にもとづく開発整備の恩恵を、当市が大きく受けることは考えられない。それは同法が中部九県を一つとした中部広域経済圏の観点から計画を進める中部圏レベルのものであるからである。しかし同法がその法の示すごとく、開発と整備を兼ねるような法律であって、当地のような開発と整備が十分及ぶよう働きかける必要がある。この際、域内レベルの域内枝葉道路の点で述べた限

において、域内枝葉道路の点で述べた限

市レベヤの事業は、その地域の地方自治体の責任において実施しなければならぬ、ということである。地方自治の発行などの方法で財政的な問題も解決できることである。

さて本市の将来の人口動態を予測するに、これまでの市勢に比較して決して心配するに足らない面も気付き、これは住宅地づくりの動向とも関連するが、名義パイパスが完成すれば名古屋を中心とする臨海工業地帯への時間的短縮から、これら地区産業人口が清浄な環境を求めて本市へ向かうとすることが考えられ、すでに愛知県北部地区の沿線地域では、周辺開発の変化と密接な関連をもつた人口動態が予測としてみられる。ただ問題は通勤客の輸送機関としては、鉄道がバスより格段すぐれており、国鉄の第三次近代化計画が進むといえ、岐阜あるいは、多治見回りの中京への鉄道路線は本市にとって不利をまねがない。その意味で名古屋鉄道大井線、岡田見線の当市への延長運動など促進運動が望まれる。首都圏においても臨海部の工業発展が数十年前に外延的な広がりをもちて発展しており、中京圏における美濃加茂市が臨海部の外延工業地として、あるいは住宅地として二眼レフ的な発展をみていいのではなかろうか。

これらの点に關しては市当局でも構想をもっているが、その具体的活動、先行投資、開発のおくれが内陸各都市に比べ発展テンポを著しくおそくした感じがする。

ひろみ限内の大垣・各務原市のように、戦前から工業化への発展要素をもっていた都市は条件的に恵まれていたといえようが、やはり産業振興に対する前向きな姿勢があったといえよう。

本市については、この観点から地場産業として市を代表する基幹産業がほとんど見当たらないことが産業発展をスローテンポにしている原因となっている。とくに従業員数が百人以上の事業所となるとごく限られた数になり、本市の産業基盤がこうして軟弱な土台の上に成り立っているわけである。中小企業というより零細の域をでないものが多いことから、いきおい近代化、合理化のおくれも感じられる。内陸に偏した内陸形産業の立地こそ商工業の手取り早い発展に役立つといえる。

ごく最近、市当局において工場誘致を前提とした工業用地造成適地調査を開始されているが、その候補地が加茂野町から蜂屋町にまたがる丘陵になり、この方面に向って第一歩を踏み出したことは心強い限りである。

本来なら本市に立地する地元資本による新しい産業の発生、立地がもつとも望まれるわけであるが、これまで分析してきたように、これを望むことは、いまだにはむずかしいといえる。そこでこれに、本市内の産業技術を生かし、これが応用できる加工工業の育成はもとより、名古屋・岐阜地区の協力工場的な企業誘致を大・中堅企業誘致とともに考えたい。

(四) 地元企業の育成と新産業の開発

一方、このような産業誘致に当たって注意しなければならないのは、誘致以前に地元労働力を他に流出してはならないということである。さきの名義パイパスや鉄道整備による輸送力増強が労働力の他地区への流出に終らせたくないわけである。これには地元企業に定着させるべき、地元で能力ある企業が必要で、経営者の社会的責任とともに、市当局としても若年労働力が求める健全レクリエーションの場を確保し、さらに再雇用高令層向けの住宅確保等の対策が必要とされる。いま地元で能力ある企業の必要性を強調したが、生産性の地位、さらに中小資本形態が多いう現状では、従業員賃金改善は、福利厚生施設等の急速な改善は、むずかしいとの意見もでよう。

しかし、これは一企業としてはできない相談であつても、同じような条件にある企業が、結束すれば可能なことである。全国的にいって工場集約化や工場アパート方式の協力化、協業化がみられ、(国連産省) 県においても資本取引自由化をみた今日、中小企業の体質・基盤整備のための協業化組合制度の設立を具体化しようとしている。

中小企業経営者の多くは、他人の介人をきらいたり、古くからの技術者を人にみせたくないなどの考えが強いのが実情で、協業化も容易でないかもしれない。しかしこのまま放置すれば時代のすう勢から取り残され、労働力不足はますます困難をきたすことは明らかである。

その意味で業界をリードする中心的人物がいなくてはならない。市の商行政と地元企業の密接な連携が必要となる。本市には残念ながら中堅の他都市にある商工会議が、まだ誕生していない。従って官界・産業界が一体となった協力体制に欠け、各種の推進運動等も業界からの盛上りが低いといえる。可及的速みやかに現在の商工会を発展的に改組し、商工会議所法にもとづく会議所設立が待たれるのである。というのも会議所活動を通じて官・産業界協力の工場誘致組織や業界の近代化など市とタイアップした活動、事業ができるからである。

市当局がいくら笛を吹いても工場進出が急テンポで進むとは思えない。この意味でいま指摘した産業界と一体となった工場誘致委員会などの誘致推進機関をつくり、全国的に働きかけたいものである。名古屋のような大都市でも商工会議所を中心に日本商工会議所を通じて、各地で誘致説明会を開き、これに県・市当局者も出席するといった対策を講じている。また県内他都市の誘致実績を分析すると企業進出の動機が労働力、交通条件、土地人などの条件が好条件にあったというところのほかに、かなり的大企業でも縁故進出の形態がかなり多いことを強調したい。

美濃町に立地する美濃濃養老工場は社長の出身地であつたこと、吉川町の日本レシボン製紙も同じく社長の出身地だし、このほど安

八町進出が決つた三洋電機においても用地担当責任者の出身地だといふ。また不破郡東井町の国道二十一号線沿いに進出した関西系企業の大半がこのすう勢にあることは一考を要する。

これは、郷里に「縁」を飾るのとえではあるまいが、やはり縁故を通じて人が得やすい、思想関係の心配が少ないことから比較的に進出しやすいことが上げられる。また農業のウエイトが高い現状から農業の工業化によって注目された農機工業も含め、比較的進めやすい、農・畜産物の集荷・加工センターをつくるなども産業振興策の一つといえる。農林省の食品コンビナート構想がそれであり中部地区でも中部経済連合会が数年前提唱した中部における食品加工センター構想は新聞報道によれば隣接する可児町に内陸部の一つの集積、加工センター候補地となつている。同センターの機能は、近隣からの農作物の集荷、集積センターというだけでなく、そこに加工工場もおき、清涼食品の需要地への出荷センターであるとともに畜産物加工も行なつて農産物の付加価値を大きく高め農業の近代化推進機構の合理をめざすものである。これがさらに臨海部の輸出入食料基地センターと連携する構想であるが、交通、道路の面から本市にこの種の食品工業が立地してもならぬと自然すぎる感じがする。

(五) 商業活動の近代化

さて論旨が工業問題に片寄つたかもしれないが、工業発展が消費購買力を高め市勢発展の推進力に

なることを述べたからで、これにともなう商業活動の育成、振興は、これと平行して施策を講じなければならぬことは論をまたない。

商業活動について、もつとも課題とされることは、現在部心部の街路はすでに商品の搬入搬出にも供あらず、しかも国道が貫通することは危険をともなっている。目下美濃加茂市の商圏が国鉄高山線以南の美濃太田駅前を中心として展開しているが、将来同線北側に広がる工業地帯、住宅地帯と平行した都市づくりを考慮しておくべきである。太田駅前もバスターミナルとしては限界にあり、一部駅のかたなり方に発着地点を移したバスターミナルは、利用客の便を犠牲にしたものとして好ましくない。ことに他地区からの訪問客には、まったく迷惑な事態となっている。その意味で広大な用地をもつバスターミナルを同駅北側に確保しておくかねばならない。高山線を境に南北発着方向別に駅南と駅北のバスターミナル機能の仕訳を行ない、両ターミナル間は太田駅地下に人・車道をもち連絡道路で連絡させるわけである。得米加茂野・蜂屋地区の工業発展にともなう通勤輸送もこれで消化できることになる。

一方太田駅南と北の商圏も色分けしておきたい。駅南は従来の宿場町時代からの商店として現在より整備し、道路拡張など近代化、合理化を要する。駅北はバスターミナルを中心に第二の商業活動地として北側に発展する工場、住宅地造成に合わせたショッピングセンターを設置しておくのである。

すでに商品の搬入搬出にも不便をきたしている商店の第二店舗をここに進出させ、あるいは鉄道、バス会社などとタイアップしたデパート（スーパーマーケット）の進出も可能である。

現在でいどの交通の利便さですら当市の大きな商圏は多治見、名古屋、岐阜県内にあり、これが一層便利となれば地域中枢としての美濃加茂市の商圏がそこなわれる心配があるだけに、商店街の成長が叫ばれてやがろう。駅北ショッピング街はその意味で新開地における副都心的な役割を果たせるよう考えたい。

各商店の出資による共同中高層ビル（市庁舎）をつくるなどには国の助成措置もあり、一階をマーケットに、二階以上は住宅、一階裏側に搬出入口と駐車場を設け防火、耐震上も心配ない施設とするのである。

(六) 観光開発

この商業活動の育成と平行して観光開発もおろそかにできない。現在国定公園地でありながら、その本質である日本ライン下りは、政府の国際観光ルートの一環にありながら、当市は単に観光客の乗降の素通り地点の役目を果たしているにすぎない。これには木曽川畔の大規模観光施設や既存の公園施設の拡充を行ない、特産観光品の開発が望まれる。ことにこんごは、マイカー族の増加にそなえた駐車場建設が道路建設とともに、これら観光地には重要であり、その用地取得を早期に行なっておかねばならない。

温泉等の大規模施設がただちに望めないといえ、素通りに終っている観光客を少しでも地元に残めるような対策として広域観光開発がその一つに上げられよう。

すでに県下でも自慢の家畜センターとライン観光、さらに工場などを結ぶ産業観光を開設したい。名古屋市では市と産業界がタイアップして有力工場と観光地を巡回する産業観光バスを定期運行している。工場側にとってもPRとなるといわれ、三重県においても四日市鈴鹿市で石油コンビナートと鈴鹿山麓サーキットを結んだ産業観光コースの設定が検討されている。

当市の場合も市内の工場進出をまけて可能であろうし、関の羽物美濃の紙といった広域産業観光を結びつけてもよからう。

こんご生活水準の向上とともにレジャー面への消費ウエイトは順増傾向にあり、自然環境に恵まれた当市をレジャーの通過都市に終らせたいよう手を打つべきである。

(七) ひすび

当市はこれまで述べてきたように種々問題点をかかえてはいるが、先進的な考え方で市政が進められていることは市民のたいに期待するところであり、たまたま筆者なりの判断で課題を取り上げたが、総合開発計画をはじめることと青写真づくりがなされていることは、県下のどの市にも自慢できる事情であろう。

紙面の関係で断片的な論法になつたが、蜂屋丘段地、加茂野地区工業用地造成事業をはじめ、ここでは述べつくせないため割愛した木曽川右岸用水建設、農業構造改善事業、国道四十一号線バイパス、中道大橋架設等々に市の姿勢が前面に打ち出されていることはなにより喜ばしいし、改めて総合プランがつくられるに際し、市勢発展の根本がこれらの諸事業をいかにして順序だて、満足すべき状況にいかにして短時間でなしうかにあることを感じあえて提案したわけである。

美濃加茂市発展の基本は、冒頭に述べたごとく、第一次産業からの早期脱皮による高度加工産業の育成、誘致であり、交通革命が進むプラス面をいかに地域のプラス面に吸収して市全体の住民に有効に生かすかにはかならないと考える。

新しい産業の振興は木曽の清流と自然風致に恵まれた美濃加茂市の自然をよき生かすものでなければならぬし、鉄道、道路の発展が労働力の流出というマイナス面を生んではいけぬ。美濃加茂市の前途に誕生してくるこれらのマイナスイメージは、その発展の過程と裏腹に現われることは、くり返して述べてきたところであり、われわれの豊かな郷土を富にこの観点から眺め、前向きでしかも多角的な発展策を講じなければならぬことを強調したい。

（原文のまま掲載）

「夏も寒さも彼岸まで」といいますが、初秋の涼しきは多くのに絶好のシーズンです。とくに土を踏みしめる心地よさは、楽しいものです。

▽花の種まきなど

今月は、各種の秋まき草花が、まかれるのを待っています。

また、百合の切りあげと同時に植えつけや、宿根草の株分け、リボングラスなどの改植もよい時期です。小菊のしんづみ、グラジオラスの切り上げ、バラのせん定も、今月の仕事になります。

▽果樹の手入れ

先月に引きつづいてウメ、モモ、クリなどの芽つぎをやってみましょう。

また、モモやブドウ、ナシなど実を摘んだものにお礼肥を、若木や苗木にも追肥を忘れずにやりましょう。

▽野菜の種まきと手入れ

この月も、野菜の種まきにいい時期です。

宮しげ大根、山東菜、大かぶにつづいて、三寸人参、高菜、京菜、休菜、春菊、玉ねぎ、早生かぶつなどおくれぬようにまきましょう。

苗の植えつけでは、キャベツやブロッコリーを上旬、ワケギの苗、イチゴなどは下旬に行ないましょう。

1・2期工事が完成した 西中学校・9月に開校

平面図 (3階は略す)
(3階平面図は2階と同じ)



5つの特長

- (1) 動線(生徒や先生が各教室を移動する線)がスムーズにいくよう設計されている。
- (2) 中庭があって、昇降口・階段のまわりが開放的。
- (3) アルミサッシが使っているため、外気をシャ断し各教室とも明るい感じがする。
- (4) バルコニーが、南側全体にあって、調和のとれた校舎である。
- (5) 放送室がデラックスである。とくに、放送効果が上るよう音響装置がしてある。

西中学校概要 第1期、2期分のみ

所在地	美濃加茂市太田町925番地
総工費	1億2,378万3千円
起工	昭和41年9月9日
竣工	昭和42年7月31日
構造概要	鉄筋コンクリート3階建
敷地面積	3万3,000m ²
床面積	3,090m ²
教室	普通教室 21 管理諸室 9
施工	前田建設工業株式会社名古屋支店



たばこは美濃加茂市内で買ひましょう

(ことしの実績)

ことしの
目標額

3,500万円

本数	
4月	623万7,610本
5月	514万7,600本
6月	528万7,900本
7月	532万4,530本
小計	2,199万7,640本

市へはいる税額	
342万7,660円	
282万8,680円	
290万5,780円	
292万5,910円	
1,208万8,030円	

二つの教養講座へどうぞ

花嫁講座と若妻講座

申し込みは 教育委員会へ

教育委員会は、ことし十月から「現代花嫁教養講座」と「現代若妻教養講座」の二講座を開講します。

この講座は、やがて花嫁となる方や、若妻(結婚後五年以内)の方を対象として、現在あるいは、将来の生活に役立つ「教養と知識」を内容としています。

花嫁講座は(ことしで三回め)、毎年内容も充実していますが、とくに今回は、今の若さ、美しさ、魅力をいっただけでなく、テーマとしています。

若妻講座は(ことし

が一回め)、現在の夫婦生活がより美しく、よりしあわせであるよう、くらしに欠かせない内容が中心になっています。

お気軽に、申し込んでください。現代花嫁教養講座へ。

受講期間 十月・十一月

受講料 (毎月第一・第三土曜)

受講時間 午後一時～三時三十分

会場 市役所三階大会議室

申込方法 申込書に必要事項を記入し、十月十日までに提出してください。

十月十日に九種目を競技

第三回市総合体育大会

十月十日の「体育の日」に、美濃加茂市総合体育大会(秋期大会)を行います。

この大会は、アマチュアスポーツの振興と、市民の健康増進が主目的で、夏季・秋季・冬季の三季に分けられています。

市では、この大会に市民全員が参加していただき、意義あるものにしようにと、大いに力を入れています。(九月二十までに申込み)

みなさんの参加をお願いします。

秋季大会(九月十日実施)

軟式野球(消防団) 会場は、加茂高 東総合運動場

バレーボール一般女子 婦人会 会場は、東中学校バレーコート

十月十日に実施するもの

バレーボール一般男子(一般)

軟式野球(中学・高校・一般)

ソフトボール(一般)

卓球(中学・高校・一般)

柔道(中学・高校・一般)



古井町下古井島地内に、子どもたちの遊び場【なかよし子供遊園地】が生まれました。

この遊園地は、遊ぶところが少ない子どもたちのために、土地所有者の日比野正義さん(島出身現住所名古屋)の善意と、父兄たちの献身的作業、市の協力などで立派にできたものです。

開園は、20日午前に安全を祈る神事を行なって始まり、午後は子どもたちにも加わり運動会などが行なわれました。(面積約1500平方メートル)

入し九月二十五日まで申し込んでください

受講料 二百円(通信費を含む)

受講定員 百五十名(先着順受付)

現代若妻教養講座

受講期間 十月・十一月(毎月第二・四・土曜日)

受講時間 午後一時～三時三十分

会場 市役所三階大会議室

申込方法 申込書に必要事項を記入し、九月三十日まで申し込んでください

受講定員 百五十名(先着順受付)

結核後五年以内程度の

方

目的で、夏季・秋季・冬季の三季に分けられています。

市では、この大会に市民全員が参加していただき、意義あるものにしようにと、大いに力を入れています。(九月二十までに申込み)

みなさんの参加をお願いします。

秋季大会(九月十日実施)

軟式野球(消防団) 会場は、加茂高 東総合運動場

バレーボール一般女子 婦人会 会場は、東中学校バレーコート

十月十日に実施するもの

バレーボール一般男子(一般)

軟式野球(中学・高校・一般)

ソフトボール(一般)

卓球(中学・高校・一般)

柔道(中学・高校・一般)

剣道(中学・高校・一般)

弓道(一般)

これら競技の会場は、東中、西中、中央公民館ほかです。

7月16日から8月15日まで

数字は届出日を表わす

太田 26亀井誠、直人 28山中三治、美奈子 27三品善市、若菜

27星野勝男、たえ子 28寺沢誠司

あかね 1菊川宏、藤 3岩井

勝利、洋一 4後藤源人、啓子

7林鏡司、義人 8東本正治、貞

勝則 9飯田万年、律也 11大沢

高美、美保 12古川庄平、明子

古井 17里藤政良、基信 24岡田

和郎、美和 24木村我、好孝、

彰志 24大矢勝、恭子 25伊藤寿

美雄、寿雄 26金武保夫、由美

26村井明夫、三敏 27藤井浩、

美紀 1中島有利、昭臣、和臣

7太田武雄、正樹 7黒木健吾、

智博 8井戸英行、智子 10津田

捷紀、康生 11藤田信義、百合

子 山之上 10亀井勝、清美、

屋 3酒向明、明伸 4酒向明

慶弔者

太田 20加藤さと 5金森君枝

9長谷川輔さ 9西田徳三郎

土屋金一 古井 25伊藤寿雄

黒木智博 11 藤木貞一 蜂屋

31酒向志よ 3坂井金一 加茂

野 19木村照太郎 三和 20石原

富貴男 下米田 24加藤さと

波辺

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

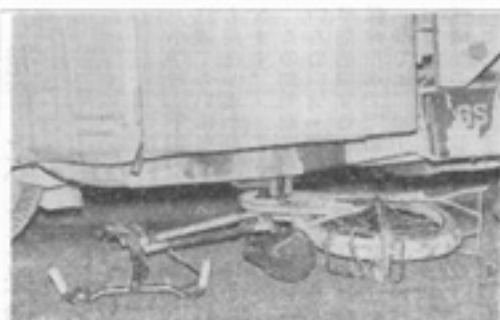
心配ごと相談

毎週木曜日
午後1時～4時
中央公民館

おきやみ

太田 20加藤さと 5金森君枝
9長谷川輔さ 9西田徳三郎
土屋金一 古井 25伊藤寿雄
黒木智博 11 藤木貞一 蜂屋
31酒向志よ 3坂井金一 加茂
野 19木村照太郎 三和 20石原
富貴男 下米田 24加藤さと
波辺

9月2日 相談員
7日 堀部美木・小島賢
14日 藤吉かおる・大野純一
21日 久保田沢雄・渡辺きよう
28日 朝日敏一・浅野亮一
10月 5日 川合 輔三・前田 茂樹
9月の巡回相談(古井町)
26日 久保田沢雄・渡辺きよう



増えてきた高令者の交通事故 自転車で通行中が最も多い

九月十五日は「敬老の日」です。今月は、高令者の方が元気で「敬老の日」を祝えていただくため、増えてきた高令者の交通事故をとり上げ、事故状況と事故防止についてお知らせします。ことし七月一日から八月三十一日までに加茂管内で発生した事故のうち、目立つて多くなった高令者（六十歳以上）の事故は十六件もあり、多くの傷者も出ています。

自転車での通行中の事故 五件
歩行中におきた事故 五件
バイクで通行中の事故 三件
自動車運転中の事故 二件
リヤカーを引き通行中 一件
この事故状況からみると、高令者が被害者と思われるものが多くなっていますが、原因は必ずしもそうばかりとはいえない例もみられます。

これは、高令になると動作が緩慢になるため、事故がおきやすい！という見方もありそうです。事故はこうしてなくす。

(1) 高令者は、交通のひんばんな道路をなるべく避ける。
(2) 高令者の外出には、出来るだけ付き添い人をつける。
(3) 高令者に通行方法、コースなどを、みんなで指導・注意する。
(写真：自転車と衝突の事故現場)

事故は訴える

国民年金制度は、昭和三十四年に法律がで、同年十一月から福祉年金の支給が始まり、三十六年からは制度の中心である拠出年金が実施されています。

しかし、最近になって次のような問い合わせの電話などが、市福祉事務所年金係にきますので、お知らせすることにお答えします。

年金に加入しないとどうなるのか かけ捨てにならないか

【国民年金】

「県民手帳」と「明るい生活の家計簿」

所か、秘書企画課へ九月三十日までにお申し込みください。

も除かれます。①の人で、②他の年金制度に加入していない人、③他の年金制度から年金給付を受けていない人、④これらの人の配偶者といつた人は、誰でも、当然拠出年金制度に加入しなければならぬことになっていきます。

保険料を長い間かけていって途中で死亡したときは、かけ捨てになるのでは、ないでしょうか。国民年金は、被保険者が六十



利用してください市営結婚式場

（だいたいの費用）

式場使用料	800円
式場仕立料	700円
（土、日、祭日は、1,000円）	
披露宴	300円
センター	600円
職業観光会館	20円
準式準備料	1人

秋は、結婚シーズンです

利用してください市営結婚式場

場所 太田町上町 青年婦人センター内

申込先 教育委員会社会教育課

TEL 5-2111 内線 74



發育に応じた保健指導を

三歳児の健康診査

小学校入学前の幼児期、つまり三歳ぐらいになると、発育段階にも変化が現われ、知能も発達してきます。

この幼児期に起りやすい、いろいろの病氣・習癖を、早期発見、早期治療するよう、母子保健法の保健指導で定められています。市では、お子さんが健やかに育つていただくために、次の日程で三歳児の健康診査を行います。この健康診査で欠陥があれば保健所が適切に指導助言をします。

該当する方は、必ず受けさせてください。

健康診断の内容

- (1) 身長、体重、胸囲の測定
- (2) 健康診断
- (3) 歯の検査
- (4) 眼、耳、言語の検査
- (5) 精神、知能診断
- (6) 生活習慣、習癖の診査

鼓吹者

昭和三十八年九月一日から三十九年八月三十一日までの出生児

ありがとう太田教室

西中三年 林 信 之

我が學びや、太田教室
と別れる日が近づきまし
た。
先輩のみなさんや、わ
たくしたちの思い出を残
してくれた太田中学校は
後輩の一年生の諸君が
つと、たいせつにしてく
れると思います。
わたくしたちは、九月
から、りっぱな校舎に移
ります。
新校舎は眼下に誇ると
いわれているだけに、実
にすばらしいものです。
わたくしたちは、この
校舎で、學習が出来る
と思うと「よし、やるぞ」
とフアイトができます。

それだけに、この校舍を作ったにたい関係者のみなさんに「ありがとう」といいたくなります。

心機一転して、残り少ない中学生の生活を、有義にくらすためにも、この新校舎はなによりだと思ふ。しかし、その反面、三校が合併して、問題がでくるかも知れない。

わたくしたちは、この問題が起きる前に、みんな仲よく、一致団結して、西中の伝統を作っていくべきだと思ひます。

とにかく、新校舎に負けない、りっぱな生徒としてけんめいに学習に励みたい

秋の予防接種

次の日程で、秋の予防接種を行いますから該当する方は必ずうけてください。

料 金

三層混合、ジフテリキは、無料

小児マヒは 60円

インフルエンザは、30円から100円

種目別	と き	と ころ	中 央 公 民 館	古 井 連 絡 所	下 古 井 公 民 館	山 之 上 連 絡 所	峰 屋 連 絡 所	加 茂 野 連 絡 所	下 米 田 連 絡 所	伊 深 連 絡 所	三 和 連 絡 所
			月日時間	月日時間	月日時間	月日時間	月日時間	月日時間	月日時間	月日時間	月日時間
ジフテリア 百日ゼキ 破 傷 風	1 期 2 期	混合	1.30 10.6	1.30 10.5	1.30 10.5	1.30 10.4	1.30 10.4	1.30 10.3	1.30 10.3	1.30 10.2	2.30 10.2
1期 昭42.1.1～6.30生 2期 昭41.1.1～6.30生	3 期		2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	3.00
ジフテリア 3期 昭36.4.2～37.4.1生 4期 昭30.4.2～31.4.1生	3 期 4 期		11.8 10.6	11.7 10.5	11.7 10.5	11.6 10.4	11.6 10.4	11.2 10.3	11.2 10.3	11.1 10.2	11.1 10.2
インフルエンザ 生後3カ月以上の方 希望者全員	1 期 2 期		11.15 11.22	11.14 11.21	11.14 11.21	11.13 11.20	11.13 11.20	11.9 11.16	11.9 11.16	11.10 11.17	11.10 11.17
小 児 マ ヒ	1 期 2 期		1.30 10.20	3.00 10.19	1.30 10.19	2.30 10.18	1.30 10.18	1.30 10.17	3.00 10.17	1.30 10.16	2.30 10.16
1期 昭42.1.1～6.30生 2期 昭41.7.1～12.31生			2.00	4.00	2.30	3.00	2.00	2.00	3.30	2.00	3.00